

【情報公開文書】

2020 年 10 月 24 日作成

Ver.1.0

研究課題名	バスキュラーアクセス閉鎖術の移植腎機能に及ぼす影響の検討
所属（診療科等）	長崎大学病院 泌尿器科・腎移植外科
研究責任者	望月 保志 （准教授（血液浄化療法部））
研究機関	《研究代表機関》 大阪市立大学大学院医学研究科 泌尿器科学 長沼 俊秀 《共同研究機関》 長崎大学病院 血液浄化療法部：望月 保志 その他、全国4施設で実施しています。 詳しい研究機関についてお知りになりたい方は下記の「問い合わせ先」までご連絡ください。
研究期間	2020 年 12 月 22 日～2025 年 12 月 31 日
研究目的と意義	欧米の研究において腎移植後のシャント閉鎖により腎機能悪化のスピードが若干早くなることが指摘されていますが、我が国においてその現象が見られるかどうかははっきりわかりません。本研究により我が国においてのシャント閉鎖が実際どれくらい腎機能に影響を及ぼしているかを調べます。そのことによりシャント閉鎖の利点の有無について患者さんに提供することが可能となります。
研究内容	●対象となる患者さん 2000 年 9 月 1 日～2020 年 9 月 31 日までに長崎大学病院の泌尿器科で腎移植を施行した後に当院でシャント閉鎖術を施行した腎移植患者さんの中で、シャント閉鎖術後 2 年以上経過した方が調査の対象になります。 ●利用する情報 診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させていただきます。 診療情報等：病歴、診断名、手術歴、年齢、性別、身長、体重、原疾患、既往歴、透析歴、喫煙歴、移植条件、移植後経過、内服薬、検査データ、血圧 本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「問い合わせ」までご連絡ください。 ●研究の概要・方法 対象となる患者さんについて、上記に挙げている診療情報を収集し、シャント閉鎖術後の変化について統計学的手法を用いて、調べます。そのことにより、シャント手術の移植腎機能への影響の有無を明確にします。入手した情報については、大阪市立大学泌尿器病態学医局内に施錠して管理します。ま

	た情報については大学病院医療情報ネットワーク研究センター 臨床試験登録システム(UMIN)に登録を行います。
問い合わせ先	【研究担当者】 氏名：望月 保志（医師） 長崎大学病院 血液浄化療法部 住所：長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号 電話：095（819）7358 FAX 095（819）7360 【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616 受付時間 : 月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）